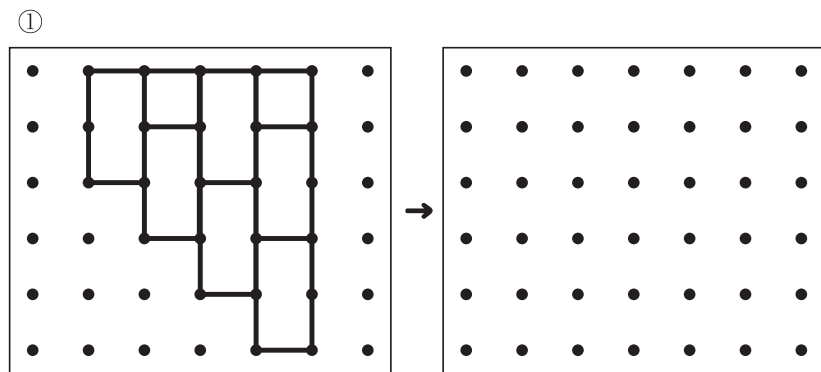


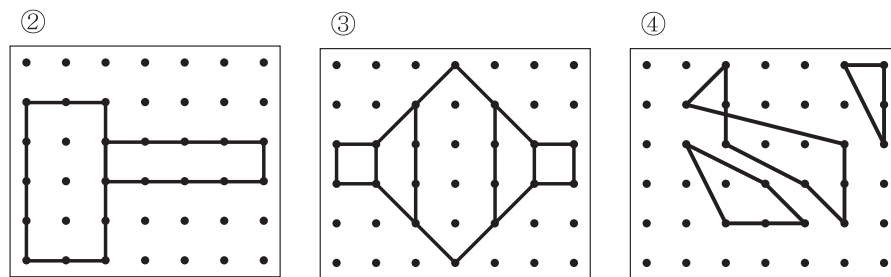
<指導上のポイント>

「点描写」の問題は、小学校の入試問題でもよく用いられるものの一つです。点描写によって「注意力」、「構成把握能力」、「作業能力」、「筆圧」、「指先の調整能力」などの知能因子のチェックを一度に行うことができるので、入試問題でもよく出題されるのだと思われます。特に、図形関連の能力とは、深い関係があるかのように見受けられます。出題形式としては、図①のように左側の図形を右側に移しかえる問題が基本です。



その他、図①の左側を15秒見せてから隠し、「今見た形を同じように描きましょう」というような、視覚的記憶の問題と組み合わせられたものが出題されることもあります。

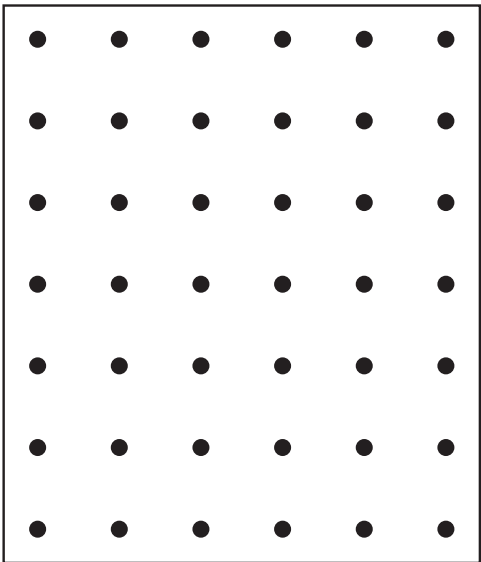
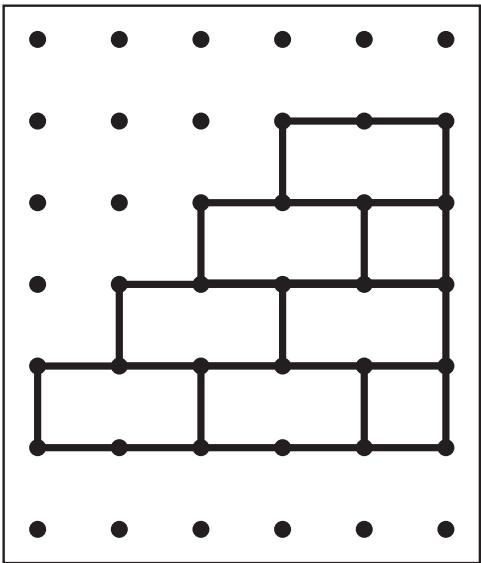
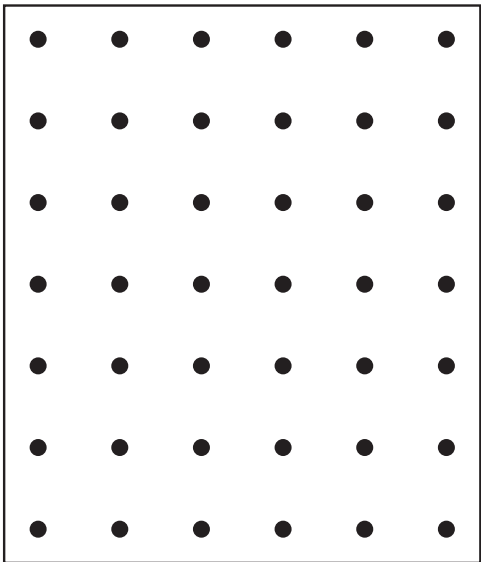
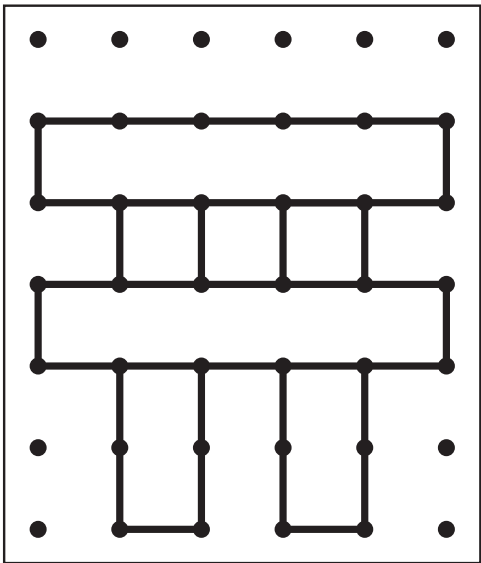
線を引くときの難易度ですが、図②のような縦横の直線が一番簡単です。図③の中にあるような斜めの線が、子供にとってはなかなか難しいようです。一番難しいのは、図④にあるような点の上を通過しない斜めの線です。



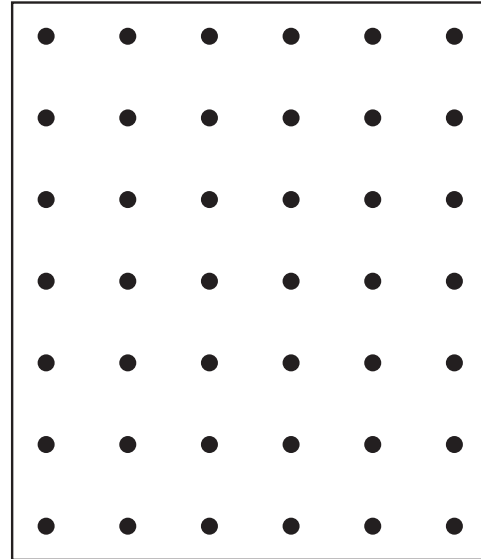
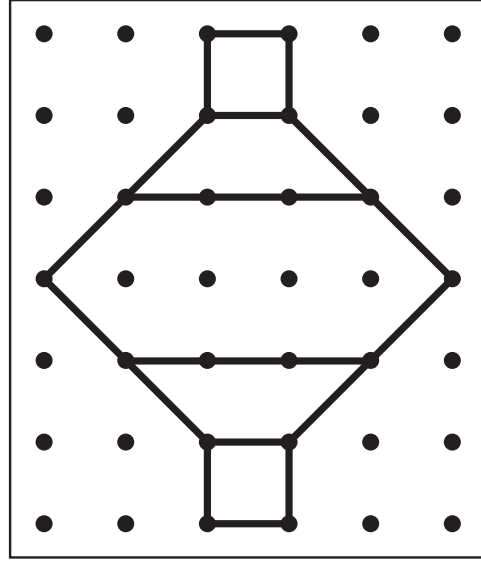
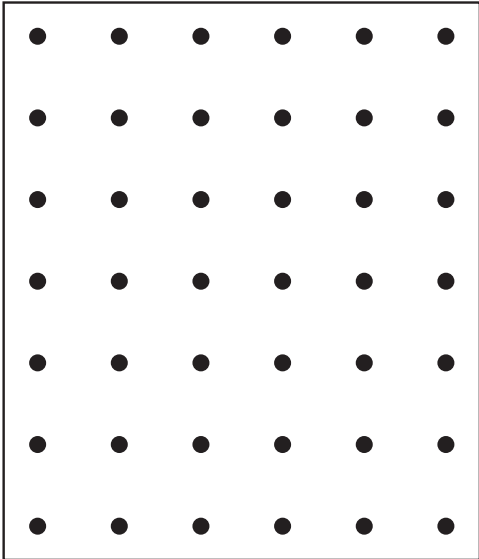
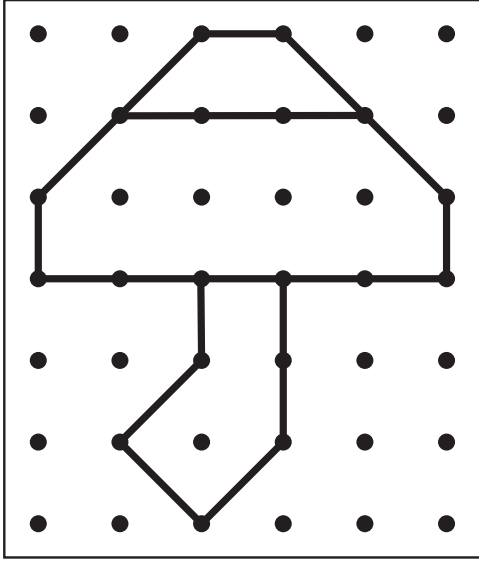
全体的な注意ですが、大きく図形を捉えることができるようになれば、間違いが少なくなります。また、できるだけ正確に描く練習をしてください。その上で、早く描く練習もすれば、入試の際の制限時間にも対応できるようになるでしょう。

ピグリの「点描写」シリーズを①から④まで順番にこなすことによって、図形の認知能力が飛躍的に高まります。まずは点描写の基本的な問題を取りあげた「点描写①」からはじめてください。

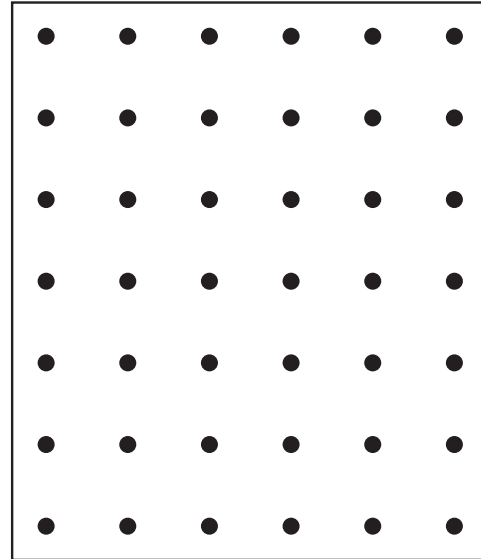
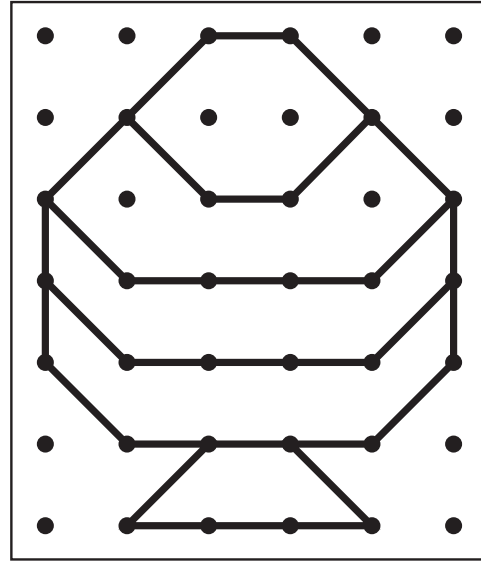
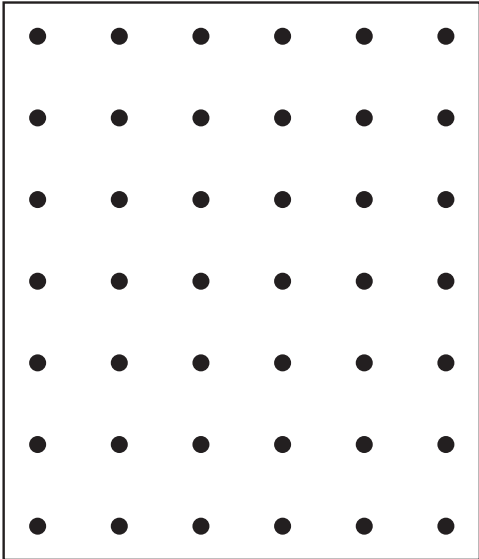
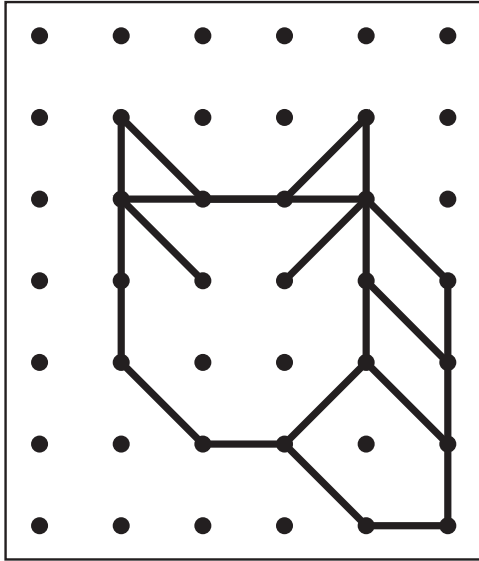
てんをつないで、おてほんどおりのかたちをつくりましょう。



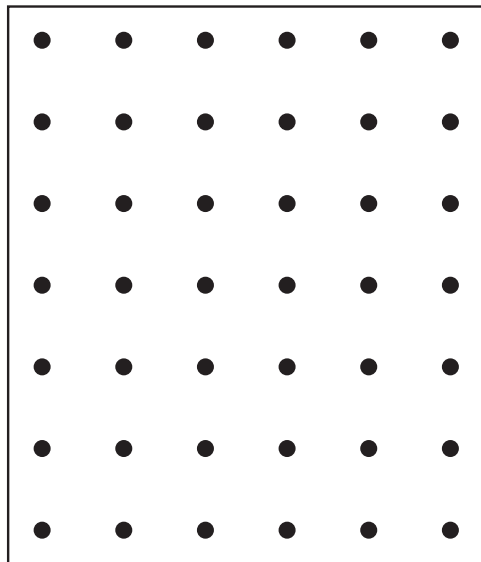
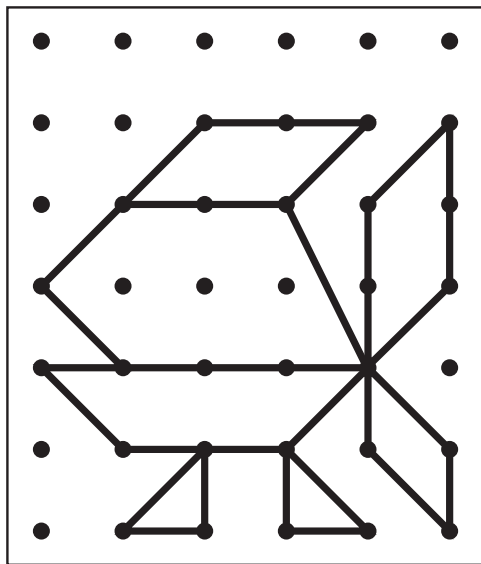
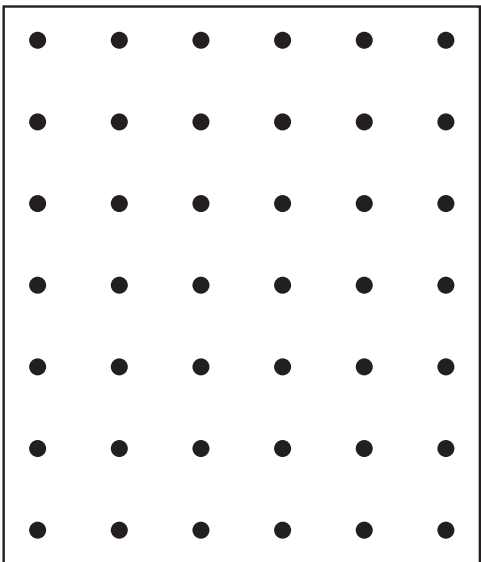
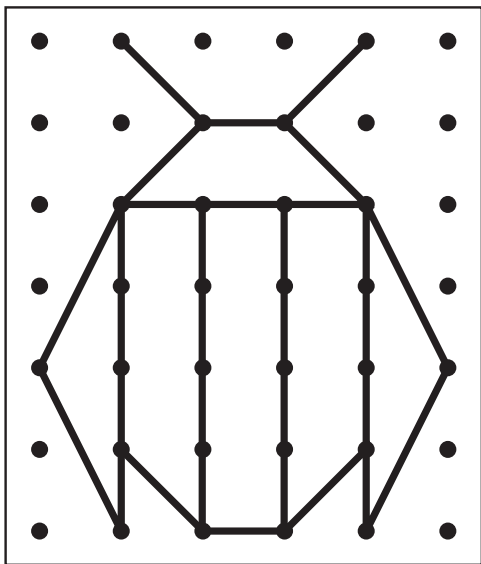
てんをつないで、おてほんどおりのかたちをつくりましょう。



てんをつないで、おてほんどおりのかたちをつくりましょう。



てんをつないで、おてほんどおりのかたちをつくりましょう。



てんをつないで、おてほんどおりのかたちをつくりましょう。

